

来週の「売り物記事」はこれ



2017年3月24日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

漫画家、小沢さとる 「今日(いのち)のゼロ戦」を描く

26日(日)



漫画家の小沢さとるさん(81)は1960年代の代表作「サブマリン707」や「青の6号」で海洋冒険漫画の第一人者として知られるほか、70年代にヒットしたプラモデル「ロボダッチ」のキャラクターデザインも手掛けました。病と交通事故で創作活動を一時断念しましたが、約20年を経た今、再び筆を執り始めています。作品の一つ



が144枚の色紙から成る「今日(いのち)のゼロ戦」。一枚一枚の色紙を「漫画の一コマ一コマの代わり」にして、一人の特攻隊員の物語を完成させました。戦時下、小学校の校舎から見上げたゼロ戦は8歳の少年の目に美しく映ったといいます。一方で、東京大空襲後の遺体の山を踏み歩き、従兄が特攻隊員だった小沢さんは、「戦闘機は戦争の道具」であることを実体験として承知しています。会社員との二足のわらじを履いた異色の漫画家人生をたどりつつ、「ゼロ戦」に込めた複雑な思いに迫ります。

日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

これで過労死、過労自殺がなくせるのか？

残業上限「月100時間」の落とし穴

夕刊特集ワイド 27日(月)



悲しむべき過労死や過労自殺が繰り返される中、政府は長時間労働の是正策として「残業時間の上限は、繁忙期でも月100時間未満」などと決めました。「働き方改革」は安倍首相の肝いりの政策だけに、どんなハードルを設けるのか注目されていましたが、「これでは過労死を合法化するようなもの」などと批判の声がやみません。どこに問題があるのか。家族を過労死で失った人や労働問題に取り組む弁護士、研究者らに取材しました。

JR7社の「明と暗」

国鉄[民営化30年] どう評価する？

オピニオン面 [論点] 31日(金)

戦後最大の行政改革とされる国鉄の「分割民営化」から4月で30年。赤字体質からの脱却を図るため旅客6社と貨物の「JR」各社に生まれ変わりました。民営化に伴いサービスは向上したと評される一方で、利益優先のかけ声の中で赤字路線は次々に消え、地方衰退の一因とも指摘されます。「民営化」がもたらしたものは何だったのでしょうか。識者に聞きました。



時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。



「くらしナビ」面で連載している「女の気持ち」に投稿した読者を訪ね、その後の様子などを描く人気コーナー。今回は、熊本県合志市の田尻あおいさんを、西部本社報道部の松田幸三編集委員が訪ねました。

14年前、流産した時に同性の看護師に「我慢せずに泣いていいんだよ」と心に寄り添う言葉をかけてもらった経験をきっかけに、3人の娘を育てながら看護学校に入学。来春の准看護師の試験合格に向けて勉強を続けています。「人生経験を積めば積むほど優しい看護ができるような気がします」とも。ぜひ、お読みください。

住・復活祭を楽しむ 春色卵に飾りをぺたり

くらしナビA面 28日 (火)

イエス・キリストが死からよみがえったことを祝福する祭日「イースター」が、秋のハロウィーンに続いて日本でもイベントとして定着しつつあります。そのシンボルとなるのが春らしい色や飾りを付けた卵「イースターエッグ」。ペーパーナプキンを貼り付けたり、レースやリボンを付けたりして飾り付けるだけ。簡単に手作りすることができます。



連載 「転勤、できますか？」

くらしナビA面 29日(水)、30日(木)の2回



労働力人口が減少し、働き方も多様化する中で、転勤制度が限界を迎えつつあります。国は家庭生活と両立できるような制度の運用を促す指針を策定する予定です。転勤を従業員の育成などの観点から重視している企業もありますが、社員一人一人はそれぞれの事情があり、企業が人事で配慮しようにも限界があります。転換期を迎える転勤制度について考えました。